



様式第1号

農事組合法人原東部「集落営農ビジョン」

作成日：平成29年 4月26日

修正日：平成 年 月 日

市町村名	北栄町	組織名	農事組合法人 原東部
------	-----	-----	------------

1 地区の範囲
東伯郡北栄町原地区

2 地区の概要

水田面積 47.3 ha	主な水田栽培作物 水稻・大豆・麦	農家数 67戸
認定農業者数 4経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	6経営体

3 組織化及び集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

【項目】		【現状】	【目標】 30年度
組織の概要	設立時期 (規約等の制定日)	平成27年2月7日 (平成27年2月7日)	
	組織形態 (該当形態に○を記入)	・未組織 ・共同利用型 ・作業受託型 ・協業経営型	・共同利用型・作業受託型 ・協業経営型
	構成農家数	29戸	29戸
農地の集積	集積面積 A	20.1 ha	20.6 ha
	対象水田面積 B	28.5 ha	28.5 ha
	集積率 A/B	70.5%	72.2%
世代交代への取組		オペレーター 15人	新たなオペレーターを育成するとともに、現在のオペレーターの技術向上に努める。
新規就農者の活動参画		*****	*****

注1) 目標は、事業実施最終年度の翌年度とする。

2) 設立時期の目標欄は、ビジョン作成時に組織が設立されていないときのみ記載すること。

3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。

4) 集積率の目標は、50%超が採択要件。

5) 集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。

6) 集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増、世代交代への取組、新規就農者の活動参画のいずれかでも可。ただし、世代交代への取組又は新規就農者の活動参画の欄に現状及び目標を記載すること。

I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

※考え方（担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。）

原地区は土地条件と水田水系の違いにより、2つの営農組合が設立・運営されている。原東部営農組合は平成27年2月7日農事組合法人原東部として発足した。地域の水田は地域で守り経営の合理化・健全化を図るとともに、農地中間管理機構の事業により土地集積を行い農作業の効率化、省力化を図り組合員の結束を進めていく。

2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

※考え方（今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。）

水田の作付けについては現在コシヒカリ、きぬむすめ、転作に大豆、飼料用米、麦を組み合わせる作付けを行っている。麦については28年秋からの新たな取組で、水田の高度利用によるさらなる収益向上と米、麦、大豆のローテーションで機械の有効利用と労力調整を考えながら取り組んでいく。水稲については共同育苗でプール苗を作り、また鉄コーティング直播栽培も4年経過し、460aを栽培し、29年度より乾田直播栽培を計画している。生産調整については大豆、飼料用米、麦を作付することにより対応したいと考えている。

3 農業用機械施設の効率利用

※考え方（省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。）

高齢化による労力不足が進んでいく中で、今後も水田圃場の大区画による農作業の効率化、省力化を進めなければと考えている。機械の有効利用については、コンバインは水稲、飼料用米と麦の導入により一層の機械の効率的な利用を図っている。トラクターについては耕耘、草刈り機、モア、畔塗機の導入により労力の省力化が一段と図ることができた。これに加え、アッパーロータリーの導入により、28年秋より裏作で始めた二条大麦の収穫後から表作の大豆への切替時の耕耘の適期作業の効率化・省力化を図ることで安定生産につなげたいと考えている。
また、稲わらの有効利用方法として畜産農家に稲わらを提供して堆肥をもらい、耕畜連携の取組による土づくりと、地域農家の稲わら需要の要望に応えたいと考えており、本事業によるロールペーラの導入によって対応していきたいと考えている。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

※考え方（世代交代に備え、組織運営の後継者をどのような方法で育成していくか。新規就農者の活動参画。具体的な取組みの内容について。）

当組合の役員は12名で65歳以上が10名であり後継者育成は重要な課題となっている。機械のオペレーターについては勤労者の方にも動員をお願いしており、高齢化による労力不足に対応すべく、15名の方に参加してもらい今後の担い手としてオペレーター技術向上に努めている。作業は機械作業ごとに班を結成し適切に作業できるように指導している。

5 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューを実施する組織においては必ず記入】

※考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。）

当組合員は高齢化と畑作及び砂丘耕作者が多く、農作業の効率化、省力化を一層進め組合員の労力負担を軽減するとともに組合に対する意識強化と連帯感の高揚を図っているが、今後は女性の参加も必要になってくると考えており、どのような形で参加ができるか勉強していきたいと考えている。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
アッパーロータリー	作業幅 180 cm 耕深 15 cm	1	851,090	29年5月	○
ロールペーラ	80~120 ベール数/時	1	1,114,000	29年9月	○
トラクター	60ps	1	8,000,000	30年3月	